

「2021年度日系社会研修 研修コース一覧」

No.	研修科目 和文	人上受 数限入	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画 (内容)	資格要件	提案団体	担当者名	所管 センター
1	C01 日本の地域特産品を活用した6次産業化と アグリツーリズム	8	下	2021年10月3日	2021年11月6日	<p>研修員が、日本の地域特産品を活用した6次産業化・高付加価値化、アグリツーリズムにかかる知見を習得し、自国で活用するための実践計画を作成する。</p> <p>1. 研修員に、地域における大規模農業および中小規模農業の両面の事例から、日本の6次産業化・高付加価値化と1次産品に依存しない農業経営、アグリツーリズムの全体像が理解される。 2. 研修員に、日本の6次産業化、アグリツーリズムの手法が習得される。 3. 日本最大の食糧供給地である北海道十勝地域における6次産業化・高付加価値化、アグリツーリズムを参考に、自国で応用可能なアイデアを考案できる。 4. 日本の農業協同組合や農業に関連する法律など農業の基本的な仕組みを理解できる。 5. 研修員が、帰国後の具体的な実践計画を作成する。</p> <p>1. 講義：6次産業化と1次産品に依存しない付加価値化・農業経営、アグリツーリズムの概要、独自の開拓の歴史を持つ北海道・十勝の農業、農業経営等および、農業協同組合や農業関連施策や法律など 2. 視察：6次産業化、アグリツーリズムを実践している農家、法人 3. 実習：事業計画の実践、加工及びサービス・販売、北海道の伝統的な祭りを始めとする日本文化の体験 4. 発表：内部及び関係先</p>	<p>農業経営者、農業協同組合職員、農業系行政職員、日系団体所属者、日系団体でツーリズムに関わる担当者</p> <p>学歴：大卒（相当） 経験年数：不問 （農業生産者団体・日系ツーリズム団体等で3年以上の実務経験を有する方が望ましい） 年齢：21以上 日本語力：挨拶程度の日本語ができることが望ましい 英語・多言語：本研修は、集団研修として通訳を配置予定</p> <p>教材：ポルトガル語orスペイン語</p>	<p>一般社団法人 とちぎ地域活性化支援機構</p> <p>HP: https://tokachi.biz/</p>	<p>岩本 聖史 e-mail: kaigai@tokachi.biz</p>	帯広
2	C02 医療機器管理・保守	8	下	2021年11月7日	2021年11月27日	<p>医療機器を理解し、日常点検の方法や簡易な修理技術を習得することにより、機器が長期間活用されるようになる</p> <p>医療現場で起こり得る医療機器の問題点、日常点検方法を習得する</p> <p>1. 講義：病院設備、医療機器の基礎、各種医療機器管理の実際、医療関連機材の構造 2. 実習：医療機材の日常点検、簡易な修理方法、デジタルマルチメーター、簡易漏れ電流測定装置製作 他 3. 見学：郡山市内総合病院</p>	<p>医療機材の管理・保守に従事する者</p> <p>学歴：大卒（相当） 経験年数：3年以上 年齢：21歳以上 英語・多言語：通訳配置可能性有 教材：スペイン語又はポルトガル語</p> <p>宿舎は自炊可能な弊社研修所内の予定</p>	<p>東北エア・ウォーター株式会社</p> <p>HP: http://www.tohoku-awi.co.jp/</p>	<p>水谷 恭二 e-mail: info-tawmed-h@awi.co.jp</p>	東北
3	C03 地域における観光振興	10	下	2021年11月7日	2021年12月5日	<p>研修員が当該地域の特徴や課題を客観的に理解し、その特徴に合致した観光政策を進め課題を解決するための考えや手法を習得する。</p> <p>① 観光産業の特性を知り、自国の観光産業を活性化させるための課題や地域の 特徴を明確にすることができる。 ② 観光開発における官民及び地域住民との連携の重要性を認識し、自国での連携整備について考察し、それを観光政策に活かす場面を構築できるようにする。 ③ 観光産業を充実させるための人材育成法を学び、人材育成のための研修システムを自ら考察できるようにする。 ④ 日本のおもてなしのサービスを提供するためのノウハウを学び、他との差別化を図った顧客満足度を向上させる接客案を立案できる。 ⑤ 地域資源を活かし、観光を地域振興につなげていく取組について学び、自発的な観光開発について考察し、活動計画を策定する。</p> <p>1. 講義：日本人観光客の当該国への観光志向、観光分野の人材育成、地域における観光振興、地域資源の活用（食、伝統工芸、自然等）、災害からの復興 2. 見学：観光地（首都圏近郊、福島県の歴史・自然に関わる場所・地域）、旅行代理店、観光専門学校、道の駅、温泉旅館等 3. 演習：直面している課題を分析し、研修で学んだ手法の適応を検討し、アクションプランに反映する 4. 発表：一般市民、内部及び関係団体</p>	<p>観光産業に携わる立場にあり、研修したことを実践的に取り組める環境にある者</p> <p>学歴：大卒（相当） 経験年数：3年以上 年齢：21歳以上 日本語力：日常会話ができる程度の日本語 英語・多言語：日本語が乏しい場合は日常的な英語を理解できること。</p>	<p>会津若松市国際交流協会</p> <p>HP: http://awia.jp/</p>	<p>小林 真司 e-mail: mail@awia.jp</p>	東北
4	C04 音楽リハビリ・プログラム	6	下	2021年11月7日	2021年12月1日	<p>・音楽リハビリ・プログラムの理論と実技を習得する ・帰国後に現地でリハビリの実施やスタッフ等の指導・訓練ができる人材を育成する ・日本国と日系社会との関係強化のための交流を促進する</p> <p>・高齢者の介護予防に必要な6つ観点「運動器機能向上」「口腔機能向上」「栄養改善」「認知症予防」「閉じこもり予防」「うつ病予防」を理解する ・6つの観点をどのようにプログラムとして展開していくかを理解し、実際に展開できる ・リラクゼーションヨガ、リズム運動、音楽セッションの3つのプログラムの運営管理手法を習得する ・音楽を活用した運動、音楽演奏手法、脳の活性化訓練手法を習得する</p> <p>1. 講義：研修会場で講師による講義の実施 2. 実習・OJT：音楽リハビリ・プログラムの実演 3. 見学：ゆらリズム（通所介護施設）・他高齢者施設の見学 4. 演習：ゆらリズム等で利用者様向けのプログラム実施 5. 発表：研修内容についてのレポート作成、発表</p>	<p>高齢者福祉を中心とした保健医療福祉業務に従事している者（看護師や介護士の資格あれば尚可）</p> <p>学歴：不問 経験年数：3不問 年齢：21歳以上 日本語力：挨拶程度の日本語ができること 英語・多言語：通訳配置可能性有</p> <p>教材：ポルトガル語orスペイン語</p> <p>宿舎は仙台市内のホテルを予定</p>	<p>株式会社 ゆらリズム</p> <p>HP: http://yura-rhythm.com/</p>	<p>菊地 義仁 e-mail: kikuchi.yura@gmail.com</p>	東北
5	C05 日系農協および生産組織の生産管理・販売事業の高度化	6	下	2022年1月10日	2022年2月10日	<p>研修参加者の皆さんが農協組織などを通じて販売事業に生産管理などにかかる知見を習得し、新たな事業への方向性を探る。</p> <p>1) 農協及び農業生産者団体による「工程管理等をベースにした品質管理」のしくみがつけられる。 2) 農協組合員のメンバーシップ強化について議論すると同時に、組合員の地域農業と協同組合への理解と組合運営への参画 3) 販売・購買事業・農産加工事業強化のための方策が図られる。 4) 経営管理・財務管理および役員教育活動の向上が図られる。</p> <p>研修計画 (内容) : 1) 講義 : 日本の総合農協の取り組み～経済・社会/生活における役割、農産物流通における農協の取り組み、営業指導のしくみ、販売事業の仕組みと生産・出荷管理、福祉事業の取り組みと地域社会における役割、農協の経営管理手法と情報技術の活用事例、行政による普及事業 2) 見学 : 農協組織 (単位農協、事業連合会関連施設～販売・購買・)、畜産事業 業関連施設、民間小売店舗、行政機関 (試験場、普及関連機関) 3) 意見・情報交換 : 農協役員との経営に関する意見・情報交換、組合員農家との生産管理についての取り組みの意見・情報交換会 4) 発表 : 研修最終日</p>	<p>農協組織役員及び農業生産者団体関係者</p> <p>学歴：不問 経験年数：2年以上農協職員経験及び農業生産者団体において2年以上の生産経験 年齢：21歳以上 日本語力：問わない (ただし、日本語の日常会話ができる程度の日本語能力を有する者が望ましい。)</p>	<p>一般財団法人 アジア農業協同組合振興機関</p> <p>HP: www.idaca.or.jp</p>	<p>大下 栄子 e-mail: oshita-idaca@j.email.ne.jp</p>	横浜

「2021年度日系社会研修 研修コース一覧」

8	C08	サービス改革-おもてなしの心-	10	下	2021年12月5日	2021年12月25日	<p>研修員が、日本の事例や体験をもとに、「サービス」の本質や改善のための手法について理解し、自社のサービス提供のあり方と課題について検討・分析して改善する。</p> <p>1. サービスの本質について理解し、その価値を高めるためのアプローチを習得する。 2. サービスにおける生産性向上のアプローチを習得する。 3. 自社のサービス提供における問題を分析し、解決策をアクションプランにまとめる</p> <p>1. 講義：日本人の国民性とサービス文化、日本におけるサービス産業の特徴と課題、優れたサービスを提供するためのポイント、サービス業における改善の取組、5Sによるムダの削減 2. 演習：問題解決の進め方（問題分析） 3. 見学：サービス産業の企業訪問 4. 発表：ジョブレポート、研修成果・アクションプラン</p>	<p>現在、サービス業に従事していることが望ましい</p> <p>学歴：大卒(相当) 経験年数：卒業後3年以上の実務経験（現在または近い将来において管理的職責を担うことが見込まれること） 年齢：21歳以上 日本語力：日本語あるいは英語の使用を読んで理解し、いずれかで報告書を書くことができる</p> <p>備考：参加者の語学レベルに応じて、研修管理員/通訳の配置を予定（スペイン語またはポルトガル語のいずれかとなるが見込まれる）</p>	<p>一般財団法人日本国際協力センター（JICE） HP: http://www.jice.org/</p>	<p>吉村 純 e-mail: kikakut@jice.org</p>	横浜
16	C16	持続可能な日系団体運営管理	6	下	2021年10月3日	2021年11月6日	<p>研修員が、持続可能な団体運営の方法に関する知識を習得し、ソーシャルビジネスの手法を用いた日系団体による地域活性化のための新規事業計画を作成する。</p> <p>1. 研修員に、非営利団体の運営管理手法に関する知識が習得される。 2. 研修員に、日本人移住の歴史及び日系社会支援の変遷に関する知識及び知識普及のための技術が習得される。 3. 研修員に、現代日本事情及び日本伝統文化に関する知識が習得される。 4. 研修員が、日系団体及び地域活性化のための新規事業計画を作成する。</p> <p>1. 講義 日系関連事業、日系団体に関する講義/非営利活動、ソーシャルビジネスに関する講義/ビジョン・ミッション論/モチベーション管理/リーダーシップ論 2. 演習 社会的課題発見手法/問題解決手法/新規事業作成手法 3. 見学 ソーシャルビジネス現場視察/在日日系コミュニティ支援/海外移住関連施設 4. 演習 日本文化行事企画/ファシリテーション手法</p>	<p>日系団体等（日系農協および日系団体下部組織を含む）非営利団体に所属し、帰国後、習得した技術を日系社会や地域社会のために役立てられる者</p> <p>学歴：不問 経験年数：1年以上 年齢：21歳以上 日本語力：原則、日本語で実施 英語・多言語：参加者の日本語レベルに応じて通訳を備上予定</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会 HP: http://www.jadesas.or.jp/</p>	<p>水上 貴雄 e-mail: kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
19	C19	日系継承教育（教師育成Ⅱ）	6	下	2022年1月10日	2022年2月15日	<p>研修員が、継承教育に関する知識（ことば、文化、歴史（移住学習を含む））及び指導技術を習得する。</p> <p>研修員に、継承教育・言語（発達）教育の応用理論が理解され、実践方法が習得される。 2. 研修員に、継承教育におけることばに関する知識及び指導技術が習得される。 3. 研修員に、初級コースのコースデザイン方法が習得される。 4. 研修員に、文化的活動の指導計画作成方法及び指導技術が習得される。</p> <p>講義： ①継承教育・言語（発達）教育の応用理論 継承教育と人格形成（移住学習の実践と方法、継承教育と思考の方法、言語発達と日本語教育） ②継承教育とことば ことばの教育（日本語授業の研究（一般・年少）、技能別指導法） ③継承教育と文化 こどもと文化活動（文化活動、日本文化の体験学習、伝統文化とサブカルチャー） 2. 視察：外国人学校、日本文化施設など 3. 演習</p>	<p>①日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師 ②原則、日系継承教育（教師育成Ⅰ）コースを受講した者。</p> <p>学歴：不問 経験年数：※教師育成Ⅰコースの受講経験がない者でも経験年数5年以上または教授時間500時間以上の経験を有する者で、本コースからの受講を希望する者は可。 年齢：21歳以上 日本語力：N2以上 （初級後半の指導法習得を目標とするためそれ以上の日本語力が必要）</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会 HP: http://www.jadesas.or.jp/</p>	<p>水上 貴雄 e-mail: kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
20	C20	日系継承教育（教師育成Ⅲ）	6	下	2022年1月10日	2022年2月16日	<p>研修員が、継承教育に関する知識（ことば、文化、歴史（移住学習を含む））および指導技術を習得する。</p> <p>1. 研修員に、日系継承教育に関する知識が習得される。 2. 研修員に、初中級及び中級レベルの指導に関する知識および技術が習得される。 3. 研修員に、学校運営や人材育成に関する基礎的な知識が習得される。</p> <p>1. 講義： ①日系継承教育に関する知識の習得 継承教育と地域・社会（移住学習（教材開発）、ことばと教育（実践コミュニティ）など） ②初中級及び中級レベルの指導に関する知識および技術の習得 初中級及び中級レベルの日本語教授法（中級指導法、教育ICT活用法、アクティブラーニングなど） ③学校運営や人材育成に関する基礎的な知識の習得 日系日本語学校運営の基礎知識、人的資源管理、ファシリテーション手法、評価法など 2. 視察：公立校、都内日本語学校、教育系NPO、日本文化施設など 3. 演習</p>	<p>日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師</p> <p>学歴：不問 経験年数：原則、日系継承教育（教師育成Ⅱ）コースを受講した者。 ※上記コースの受講経験がない者でも経験年数7年以上または教授時間700時間以上の経験を有する者で、本コースからの受講を希望する者は可。 （教師育成Ⅱ修了レベルもしくは、中級クラス担当者または担当予定者） 年齢：21歳以上 日本語力：N2以上 （初中級の指導法習得を目標とするためそれ以上の日本語力が必要）</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会 HP: http://www.jadesas.or.jp/</p>	<p>水上 貴雄 e-mail: kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
21	C21	情報通信技術（ICT）を活用した日系継承教育	6	下	2022年1月10日	2022年2月10日	<p>研修員が、ICTを活用した日系継承教育（ことば、文化、移住学習等）の方法を習得する。</p> <p>1. 研修員に、ICT教育に関する理論や既存コンテンツの活用方法などのICT教育に関する基礎知識が習得される。 2. 研修員に、ICT教育を実施するための環境整備と活用方法に関する知識及び技術が習得される。 3. 研修員が、ICT教育を実施するためのコンテンツ作成のプロセスを理解すると同時に、研修員に、コンテンツ作成技術が習得される。 4. 研修員が、ICT教育実践現場や教材作成現場の視察を通じて、所属校でのICT教育実施計画を作成する。 ※本研修では特別な資機材を活用せず、できるかぎり一般的に使用されているレベルのハード環境（PC、インターネット（Wi-Fiを含む）、スマートフォン、タブレットなど）とパソコン標準搭載アプリや無料で利用できるGoogleアプリを活用して行うことができるICT教育の実践を目指します。</p> <p>講義：ICT教育に関する基礎知識、ICT教育実施のための環境整備と活用方法、コンテンツ作成のための企画・立案の方法 2. 実習：撮影技術、編集技術、サイト構築の方法 3. 視察：ICT教育実践現場、ICT教育教材開発現場など 4. 発表：研修最終日</p>	<p>基礎的にPC操作技術（基本的なoffice系ソフトの知識やPC設定の知識）</p> <p>学歴：不問 経験年数：教師経験1年以上、全講義、日本語で実施されるため 年齢：21歳以上 日本語力：N2以上</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会 HP: http://www.jadesas.or.jp/</p>	<p>水上 貴雄 e-mail: kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜

「2021年度日系社会研修 研修コース一覧」

22	C22	食を通じた日系団体婦人部活性化	6	下	2022年1月10日	2022年2月16日	<p>研修員が、食を通じた地域活性化のための婦人部活動に関する知識を得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修員に、日本食を中心とした調理技術が習得される。 2. 研修員に、食を通じた特産品の開発、地域おこし等の地域活性化に関する知識が習得される。 3. 研修員に、所属団体が抱える課題解決手法が習得される。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：日系社会と婦人部活動、日本の非営利活動等 2. 視察：先進農協、地域団体他 3. 実習：調理実習等 	<p>日系団体婦人部の部員</p> <p>学歴：不問 経験年数：1年以上 年齢：原則60歳以下 日本語力：原則、日本語で実施 英語・他言語：参加者の日本語レベルに応じて通訳を備上予定</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会</p> <p>HP: http://www.jadesas.or.jp/</p>	<p>水上 貴雄</p> <p>e-mail: kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
23	C23	太鼓の技術認定及び指導者育成	6	下	2022年1月10日	2020年3月24日 (帰国日3/25)	<p>①研修員が、長野県岡谷市において研鑽を重ねながら、講習会開催時には開催地に赴き、技術認定資格の取得または指導員としての認定を目指す。</p> <p>②全国各地の太鼓団体において多種多様な打法に触れ、また指導法を学ぶ。</p> <p>③太鼓の製造過程を見学すると共に可能な限り、製造・修理技術を習得する。</p> <p>④ジュニアコンクールの運営に関わるることによって、太鼓の事業運営のノウハウを学び、自国での太鼓事業開催に活かす。</p> <p>①研修員が日本太鼓について並びに日本太鼓資格認定制度の全体像の理解を深める。</p> <p>②研修員の太鼓技術を向上させ、太鼓指導者としての資格取得の可能性が増大する。</p> <p>③研修員が太鼓の製造過程を体験することができる。</p> <p>④研修員が帰国後に太鼓技術を学び、将来的に指導員として南米で太鼓指導が可能となる。</p> <p>⑤研修員が帰国後に太鼓製造に関してもアドバイスが可能となる。</p> <p>⑥研修員が日本の太鼓事業に参加し、実践経験を積み自国における活動に活かされる。</p> <p>①太鼓の技術研修：全国各地の日本を代表する太鼓チームにおいて、技術を習得する。</p> <p>②日本太鼓全国講習会及び支部講習会で技術認定資格を取得または、1級技術認定員の資格を有するものは、講習内検定として参加し、公認指導員としての資格取得を目指す。</p> <p>③障害者に対する太鼓の指導法を研修する。</p> <p>④日本の太鼓製造工場において、製造過程を見学しながら可能な限り体験実習することにより太鼓の製造方法を学ぶ。</p> <p>⑤太鼓公演を見学し及びスタッフとして参加することにより、事業運営を研修する。</p>	<p>太鼓技術の習得及び太鼓指導者になる意欲を持つ者</p> <p>学歴：不問 経験年数：特になし 年齢：2021年4月時点で21歳以上の者 日本語力：N3以上</p> <p>備考：宿舎は、長野県岡谷市の宿泊施設を拠点とし、必要に応じてそれぞれの研修地に近いホテル等を使用する。</p> <p>講習会の参加費、受講料、検定料 技術認定のみ、講習内検定料 (公認指導員を目指す者のみ、認定料等、資格取得に必要な費用は研修員の負担とする。</p> <p>参加費：毎回 4,000 円 程度 講習会によって多少の増減あり。 技術認定員取得を目指す場合講習会1回につき 受講料 9,000 円、 検定料(試験)1回につき 2,000 円 公認指導員取得を目指す場合：講習会 1回につき 講習内検定料 5,000円。 技術認定員認定料 5級技術認定員 (3,000 円、4級技術認定員 (5,000 円、3級技術認定員 (8,000 円、2級技術認定員 10,000 円、1級技術認定員 20,000 円、公認指導員認定料：3級公認指導員 30,000 円、2級公認指導員 50,000 円、1級公認指導員 100,000 円</p>	<p>公益財団法人 日本太鼓財団</p> <p>HP: http://www.nippon-taiko.or.jp/</p>	<p>小山</p> <p>e-mail: koyama@nippon-taiko.or.jp</p>	横浜
24	C24	次世代の農業を担い革新を起こす人づくり(スマート農業、フードバリューチェーン、「道の駅」を活用した地域振興策)	10	下	2021年10月3日	2021年11月6日	<p>研修員が、中南米日系農業現場での共通課題である①スマート農業、②フードバリューチェーン、③「道の駅」を活用した地域振興について知見を得る</p> <p>2. 研修員が、研修を通じて得た知識や手法を活用し、自身の農業経営強化や地域農業活性化に向けたアクションプランを作成する。</p> <p>1. スマート農業、農業のIoT/ICT：デジタルテクノロジーを活用した農産物生産・事業展開等についての事例等を通じて、スマート農業、農業のIoT/ICTについて先端技術の活用について知見を深め、経営強化のための生産事業(安定期間、安定コスト、安定生産)の重要性を理解する。</p> <p>2. フードバリューチェーン：農産物の生産から流通、販売まで付加価値を付与して商品価格を変化させているマーケットイン型の生産・加工事業事例や、各種認証制度の取り組みやトレーサビリティ等の取り組み事例を通じて持続的な農業経営について戦略を策定する。</p> <p>3. 「道の駅」を活用した地域振興策：地域活性化のため、農作物直売所、観光拠点、地域公民館等自治体が地域のニーズに合わせて、元々存在したソーシャルキャピタルをつなぐ場としての「道の駅」について、各地の取り組み事例や討論を通じ、自分の地域での取り組みについて方策を検討する。</p> <p>1講義： ・スマート農業Ⅰ (IoT/ICTを活用した研究と普及：農研機構)、・スマート農業Ⅱ (IoT/ICTを活用した農業による人材育成：高崎健康福祉大学 大政謙次 学部長)、・フードバリューチェーン、・認証制度、グローバルGAP、トレーサビリティ等の取り組みによる持続的な農業経営、・若手農業者のネットワーク化による人材育成の事例(群馬県フロントランナー養成塾)、・「道の駅」を活用した地域振興策(各地の取り組み事例等)</p> <p>2. 実習・調査： ・多様な農産物流通(フードバリューチェーン)による持続的な農業経営、・次世代農業リーダー、農業女子との意見交換会 ・「道の駅」の多様な活用事例、・ワークショップ(ナレッジマネジメント)</p> <p>3. 見学： ・スマート農業Ⅰ(研究機関：群馬県立農林大学校、群馬県農業技術センター)、・スマート農業Ⅱ(民間企業：株式会社) ・スマート農業Ⅲ(農家：IoT/ICTによるスマート農業を導入した先進農家)、・環境制御型農業、・多様な流通実践例、・農産物生産法人(民間農産物流通)、・次世代農業リーダーの活躍とアグリビジネス、・農業協同組合(組織強化、市場流通・販売促進、産地形成、共同出荷)、・「道の駅」の多様な活用事例(農産物直売所、観光拠点、体験教室、公民館機能)、4. 発表：ジョブレポート発表、アクションプラン発表等</p>	<p>農業や地域振興に関わる人</p> <p>学歴：不問 経験年数：1年以上 年齢：21歳以上 日本語力：簡単な日本語を理解できることが望ましい</p>	<p>株式会社 自然塾寺子屋</p> <p>HP: https://terrakoya.or.jp/</p>	<p>森 梨子</p> <p>e-mail: eriko.mori@terrakoya.or.jp</p>	横浜
25	C25	沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトウェア活用と地域活性化	15	下	2021年10月3日	2021年11月1日	<p>沖縄のアイデンティティが強化され、沖縄のソフトウェアを活かした研修員所属日系地域の活性化が実践される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ルーツとしての沖縄について理解が深まり、沖縄県人としてのアイデンティティが強化される。 2. 地域のリーダーとして地域活性化のための企画力、実践能力が高まる。 3. 沖縄県と研修員所属日系地域のウチナーネットワークが強化される。 <p>行政：沖縄県庁表敬、沖縄県の取組(「世界のウチナーンチュ大会」「世界のウチナーンチュの日」「沖縄21世紀ビジョン」等) 歴史・文化：沖縄の歴史、伝統文化(エイサー、空手、工芸等) 平和：沖縄の心、平和教育、平和祈念資料館、平和の礎等 リーダーシップ研修：地域活性化(沖縄県北部での事例研修、地域活性化事業案作成等) 意見交換：県内の若手日系リーダー、市町村の青年会、世界うなんちゅビジネスアソシエーション沖縄(WUB)・世界若者ウチナーンチュ連合会(WYUA)との交流等</p>	<p>沖縄県人会参加者や日本語学校関係者、地域社会のリーダー等、帰国後も積極的に活動する意欲のある方が望ましい</p> <p>学歴：大卒程度 経験年数：不問 年齢：21-50 日本語力：不問 英語・多言語：通訳配置可能性有</p> <p>備考：他の日系研修との連携あり 本研修と並行して実施される「沖縄ブランド(うちなー県産品)から学ぶ地域ブランド創出を通じた「特産品開発」「6次産業化」による日系農業コミュニティ活性化及びネットワーク強化」コースとの帰国後の相乗効果を企図して、一部合同で講義・実習を行う。</p>	<p>特定非営利活動法人レキオウイングス</p> <p>HP: http://lequiowings.org/</p>	<p>国吉 光希</p> <p>e-mail: info@lequiowings.org</p>	沖縄
26	C26	ユネスコ無形文化遺産登録に向けた沖縄伝統空手の普及継承	10	下	2022年1月10日	2022年2月25日	<p>・礼に始まり、礼に終わる伝統沖縄空手を修練することにより、心身の鍛錬に努める。</p> <p>・沖縄伝統空手の修練を通して、不撓不屈の精神を養う。</p> <p>・伝統沖縄剛柔流空手道の正統な基本と型を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伝統空手の型を繰り返し修練することで心身の鍛錬となり、空手の奥義に近づける。 2. 伝統型と型分解を学ぶことで護身術が身に付く。 3. 沖縄剛柔流空手道の基本型である三戦を正しく修練することで呼吸法を身につけ、心身を健康にできる。 4. 伝統補助運動(チーシ、サーシ、握り壘、鉄下駄、金剛拳、タン等)を行うことでより一層身体を強化できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 沖縄伝統空手4大流派(剛柔流、上地流、小林流、少林流)の研修並びに正しい歴史の講義 2. 沖縄伝統空手4大流派の流祖の顕彰碑及び墓訪問 3. 準備運動、基本運動、補助運動、正統な型の修練 4. 沖縄空手会館(資料室の閲覧)、沖縄県立博物館・美術館の訪問 5. 各研修者によるサマリーレポートの発表 	<p>3級(茶帯)以上</p> <p>学歴：不問 経験年数：2年以上 年齢：21-50 日本語力：日本語または英語(日常会話程度) 英語・多言語：通訳配置可能性有</p> <p>備考：沖縄での宿舎はJICA沖縄センターを予定</p>	<p>一般社団法人 国際沖縄剛柔流空手道連盟</p> <p>HP: https://www.gojuryu.jp/</p>	<p>蔵元 雅一</p> <p>e-mail: kuramotooujo-iogkf@bronze.ocn.ne.jp</p>	沖縄

「2021年度日系社会研修 研修コース一覧」

27	C27	沖縄ブランド（うちなー県産品）から学ぶ地域ブランド創出を通じた「特産品開発」「6次産業化」による日系農業コミュニティ活性化及びネットワーク強化	15	下	2021年10月3日	2021年11月2日	地域ブランドを活用した6次産業化、商品開発等による研修員所属の日系農業コミュニティの活性化が実践される。 1. 地域ブランドを活用し、農産物に付加価値をつけ販売を行う6次産業化や商品開発のノウハウが習得される。 2. 沖縄の企業と中南米の日系農業関係者等の双方の人的ネットワークが強化される。 3. 沖縄の企業とのビジネスの可能性等を含む自国の日系農業コミュニティ活性化事業が提案される。 沖縄県における地域ブランドの創出及び「商品開発」「6次産業化」への取り組み＝「挑戦」を明確にし、その「挑戦」に対応する「経験」を共有する。この「経験」を十分に「消化」し、自国での日系農業コミュニティ「アクションプラン」につなげ、更に研修を通じて出会う人々と「ネットワーク」の構築を研修コースの運営方針とする。これを実現するための研修内容は以下のとおり。 （目標） 1. 地域ブランドを活用し、農産物に付加価値をつけ販売を行う6次産業化や商品開発のノウハウが習得される 1-1 沖縄県における地域振興とブランディング戦略を学ぶ 1-2 地域資源の発掘から商品開発、6次産業化のノウハウを習得する （目標） 2. 沖縄の企業と中南米の日系農業関係者等の双方の人的ネットワークが強化される 2-1 沖縄の企業が有する優位性やニーズを把握する 2-2 WUB沖縄をはじめ、研修を通じて出会う多くの人々と、あらゆる形で人的ネットワーク構築について検討する （目標） 3. 沖縄の企業とのビジネスの可能性等を含む自国の日系農業コミュニティ活性化事業が提案される 3-1 中南米日系農業者との連携交流・ビジネスアイデア交換会を開催する 3-2 日系農業コミュニティ活性化を目指すプロジェクトの策定方法を習得する 3-3 自国で実施するアクションプランを策定する	日系社会で農業に関する事業に携わっているもの 学歴：不問 経験年数：実務3年以上 年齢：21-50 日本語力：不問 英語・多言語：通訳配置可能性有 備考：他の日系研修との連携あり 本研修と並行して実施される「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトウェア活用と地位8気活性化」コースとの帰国後の相乗効果を企図して、一部合同で講義・実習を行う。	特定非営利活動法人 レキオウイングス HP: http://lequiowings.org/	先家 葉子 e-mail: makosenge@lequiowings.org	沖縄
28	C28	沖縄のツーリズム・ストラテジー	10	下	2022年1月10日	2022年2月12日	自らのターゲット旅行客のニーズに対応した観光商品づくりや販売について戦略案がまとまる 1. 沖縄の観光の現状が理解される 2. マーケティングやブランディングの基本が理解される 3. 自らが携わる観光の課題を把握し、対応策の案がまとまる 1. 講義：沖縄観光の概要、マーケティングの基礎、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な事例紹介 2. 実習：マーケティングの基礎、那覇市内の観光実態調査、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な観光プログラム体験 3. 視察：首里城、美ら海水族館、東村の観光資源など 4. 演習：プロジェクト・サイクル・マネジメント（課題の分析から解決手段の提案）、分析結果の発表と討議 発表：内部および業界関係者	観光業に携わっている 学歴：不問 経験年数：実務2年以上。ある程度の現状把握が必要なため。 年齢：21-50 日本語力：日常会話程度以上。英語ができればなおよい。 英語・多言語：通訳配置可能性有	特定非営利活動法人 おきな環境クラブ HP: http://www.npo-oc.com/	立田 亜由美 e-mail: kokuba@npo-oc.com	沖縄
29	C29	小規模食品ビジネスの開発	14	下	2021年11月7日	2021年12月1日	A)食品ビジネスのビジネスモデルを作成できる B)食の安全および関連する問題を理解する C)現地の健康的な野菜や果物（抗酸化作用を含む、など）を有効活用した新規食品開発の方法がわかる A) 食の安全をいかに達成し、健康に有益な商品をいかにプロモーションするか B) 「新たな」現地の味のフュージョン食品の商品開発 C) 新規食品ビジネスのソーシャルメディアをとしたプロモーション 1. 講義：成功する（特に小規模）食品ビジネスモデル 食品汚染の主要な原因の理解とその予防、HACCP 日本の食品が海外でどのように用いられ、プロモーションされているか 目標達成のためのビジネス計画の立て方 現地の、または伝統食における主要な健康的特性 食品ビジネスをプロモーションするためのソーシャルメディア活用 日本食のフレーバーとフュージョン食品のための味の融合 消費者の嗜好を知るための消費者の官能試験（リッカート法による好ましさのテスト） 2. 実習：日々のオペレーション、管理の課題、安全な食品管理、調理と貯蔵（温度）、調理環境の影響、麺作りの技法、新規フュージョン料理の作り方 3. 見学：うどんの生産、起業家による経営の実際、特徴あるレストランの経営 4. 演習：研修生の出身国やその日系社会における課題を分析し、日本文化や日本の食品（安全）と現地のリソースを用いて、ソリューションへの道筋を探索する 5. 発表：研修成果（香川大学内およびJICA内）、討議：評価会	資格：食品ビジネス分野の起業家または将来起業を考えている者 学歴：不問 経験年数：不問、ただし食品関連分野における基礎的知識を有することが望ましく、食品ビジネス及び日本の食とフュージョン食品に興味のある者 年齢：21歳以上 日本語力：会話程度 英語・多言語：研修は基本的に英語にて実施。以下のいずれかの中級英語力が必要。 TOEL iBT55/PBT450、IELTS (Academic) 4.5、TOEIC500または同程度	香川大学 HP: http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/	Lutes Peter Gerald e-mail: lutes.peter@kagawa-u.ac.jp	四国
31	C31	日系ネットワーク強化を通じた地域振興	6	下	2021年10月3日	2021年10月30日	①ダイバーシティ・ネットワークマネジメント力を有する日系社会リーダーを育成する。 ②日系ネットワーク強化を通じた地域振興アクションプランを共創する。 ③新たな日系ネットワークの構築と強化のアイデアと斬新な発想力を有するマネジメント力を習得する ④多様化した日系社会のアイデンティティをシナジーさせた地域振興プランの具体的なヒントを得る ⑤日系研修青年とローカルユースとの交流をとおして日系社会に持続可能な新たなネットワークが構築される 高知で以下を通じた「ダイバーシティ・ネットワークマネジメント」プログラムを研修する 講義：「高知果のよさこい祭り」をツールとした地域振興戦略、「青少年グローバルリーダー育成フォーラム」、「よさこいで復活した万葉物語」、「ネットワークをつくるコミュニケーション能力」、「ダイバーシティにおけるリーダーシップ論」、「龍馬に学ぶネットワーク形成術と活用術」、「国際交流を通じた青少年育成啓発プログラム」 視察：高知よさこい情報交流館、高知城、高知歴史博物館、龍馬のうまれた町記念館 実習：よさこい鳴子語り、青少年グローバルリーダー育成フォーラム、KOCHI youth forum (SNS交流プラットフォーム) 発表：日系社会の現状と課題（カンントリーレポート）、アクションプラン（研修成果報告） その他：高知果表敬、高知果議会表敬、ホームビジット	日系社会でのリーダー的役割を期待できる人材 学歴：不問 経験年数：不問 年齢：21歳以上 日本語力：不問 英語・多言語：集団研修としてスペイン語の通訳を配置予定 備考：高知果での研修の背景と特徴 ①本研修事業は、「よさこい祭り」を世界に発信するという高知果のネットワーク国際化政策に合致する ②高知果は日本の中でも中南米への移住者が多く、歴史的にも日系社会でのリーダーを輩出してきている	高知希望工程基金会	山中 茂 e-mail: chinatu6732@yb.ne.jp	四国
33	C33	日本のモノづくり技術	8	下	2022年1月10日	2022年2月3日	日本のモノづくり技術をベースとした企業の生産性向上のための戦略的計画が策定される 1. 日本のモノづくりの要件を理解する 2. 日本的な品質管理、生産性管理技術や方策を習得する 3. 日本の生産保全、設備保全技術や方策を習得する 4. 上記を統合しQ.C.D (Quality, Cost, Delivery) 向上のための戦略的計画能力が身につく 1. 講義：日本のモノづくり（文化、思想、考え方） 2. 講義・実習：日本の品質管理・生産性管理（不良品をださない現場、現場の活性化、ロスの排除 など） 生産保全・設備保全（保全管理技術・技能、設備診断技術、設備改善による予防保全 など） 3. 見学・事例研究：5S、KAIZEN実践工場、先端技術工場 など 4. 問題解決の進め方（アクションプラン作成）およびプレゼンテーションのやり方	（日系）製造企業、業界団体に所属している製造管理・監督者、普及指導者 学歴：特に指定なし 経験年数：3年以上 年齢：21-50 日本語力：受講研修内容が理解（聴講）できるレベル初級後半 英語・多言語：通訳配置可能性有 教材：日本語	公益財団法人 北九州国際技術協力協会 HP: http://www.kita.or.jp	鳥飼 久敏 e-mail: torikai@kita.or.jp	九州

「2021年度日系社会研修 研修コース一覧」

45	L12	日系医学Ⅱ	2	下	下半期のいずれかで相談	6か月以内	<p>研修員が、医学における各専門分野の最先端技術に関する知識及び技術を習得する。</p> <p>研修員に、各専門分野における最先端医療の知識が向上される。</p> <p>2. 研修員に、各種医療機器の操作技術が習得される。</p> <p>3. 研修員に、各専門分野における診断技術が習得される。</p> <p>4. 研修員に、各専門分野における手術技術が習得される。</p> <p>5. 研修員に、術後ケアに関する知識及び技術が習得される。</p> <p>6. 研修員が、研究ネットワークを構築する。</p> <p>研修は担当医師の指導による0JTにより実務研修を中心に実施される。ただし、原則、臨床研修制度を活用しない範囲とする。</p> <p>1. 臨床例による座学 2. 0JTによる診断技術 3. 医療機器の操作技術 4. 手術見学 5. 現地の臨床例の研究・評価 6. 学会参加・発表</p>	<p>大学等研修受入機関の内諾を得ていること</p> <p>学歴：大学医学部卒業 経験年数：1年以上 年齢：21歳以上 日本語力：原則、日本語で実施 英語・多言語：研修実施場所において英語での研修が可能であり、かつ英語での研修の実施を希望する場合は応相談</p> <p>備考：応募締切は10月末日コースの締切日</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会</p> <p>HP: http://www.jadesas.or.jp/</p>	<p>水上 貴雄 e-mail: kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
46	L13	日系歯学Ⅱ	2	下	下半期のいずれかで相談	6か月以内	<p>研修員が、歯学における各専門分野の最先端技術に関する知識及び技術を習得する。</p> <p>研修員に、各専門分野における最先端医療の知識が向上される。</p> <p>2. 研修員に、各種医療機器の操作技術が習得される。</p> <p>3. 研修員に、各専門分野における診断技術が習得される。</p> <p>4. 研修員に、各専門分野における手術技術が習得される。</p> <p>5. 研修員に、各専門分野における術後ケアに関する知識及び技術が習得される。</p> <p>6. 研修員が、研究ネットワークを構築する。</p> <p>各専門分野における最先端医療の知識向上 2. 各種医療器具の操作技術 3. 診断技術 4. 手術技術 5. 術後ケア 6. 研究ネットワーク構築</p>	<p>大学等研修受入機関の内諾を得ていること</p> <p>学歴：大学歯学部卒業 経験年数：1年以上 年齢：21歳以上 日本語力：原則、日本語で実施 英語・多言語：研修実施場所において英語での研修が可能であり、かつ英語での研修の実施を希望する場合は応相談</p> <p>備考：応募締切は10月末日コースの締切日</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会</p> <p>HP: http://www.jadesas.or.jp/</p>	<p>水上 貴雄 e-mail: kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
47	L14	日系保健福祉Ⅱ	2	下	下半期のいずれかで相談	6か月以内	<p>研修員が、保健福祉における各専門分野の最先端技術に関する知識及び技術を習得する。</p> <p>研修員に、各専門分野における最先端医療福祉の知識が向上される。</p> <p>2. 研修員に、各種医療器具等の操作技術が習得される。</p> <p>3. 研修員に、各専門分野における診断技術が習得される。</p> <p>4. 研修員に、各専門分野における指導技術が習得される。</p> <p>5. 研修員が、研究ネットワークを構築する。</p> <p>各専門分野における最先端医療福祉の知識向上 2. 各種医療器具等の操作技術 3. 診断技術 4. 指導技術 5. マネージメント 6. 研究ネットワーク構築</p>	<p>大学等研修受入機関の内諾を得ていること</p> <p>学歴：医療福祉分野の専門教育を受けている者またはそれに準ずる能力を有する者 経験年数：1年以上 年齢：21歳以上 日本語力：原則、日本語で実施 英語・多言語：研修実施場所において英語での研修が可能であり、かつ英語での研修の実施を希望する場合は応相談</p> <p>備考：応募締切は10月末日コースの締切日</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会</p> <p>HP: http://www.jadesas.or.jp/</p>	<p>水上 貴雄 e-mail: kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
61	S01	食品科学と栄養管理	2	下	相談可	2022年2月10日	<p>栄養学的見地から日本の家庭料理、専門料理を学び、日本の食文化に対する造詣を深め、食を介した社会貢献をする。</p> <p>日本の家庭料理、専門料理を栄養学、食品科学、調理学といった多面的な見地から学び、理解を深めつつ調理技術を習得する。帰国後日系社会の年齢層に合った食と健康への関心を高める料理講習会、各種講演会を運営し、日系社会の活性化に繋げる。特に日系人の高齢者施設等で、和食献立のレシピを増やし、健康の維持、増進に食の見地から貢献する。</p> <p>研修員の希望を聞きつつ、日本の家庭料理、専門料理を学ぶ。食と健康に関する実践的な演習を行う。日系社会の食材を考慮しただしの取り方、調理法を検討し、年代別の献立作成の支援、発酵調味料の作成方法を学ぶ。伝統的な日本の食の研修旅行（京都・大阪・奈良・神戸）も行う。詳しくはEメール: ishii@rakuno.ac.jpに直接問い合わせてください。</p>	<p>栄養や料理に関心を持っていること</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：21歳以上 日本語力：日本語での会話ができることが望ましい</p> <p>備考：または英語、スペイン語（ある程度まで）でも可能です。応募締切は10月末日コースの締切日</p>	<p>酪農学園大学</p> <p>HP: https://www.rakuno.ac.jp</p>	<p>教授 石井 智美 e-mail: ishii@rakuno.ac.jp</p>	札幌
63	S03	継承日本語教育（教師養成Ⅰ）	2	下	2021年10月3日	2022年1月8日	<p>研修員が、継承日本語教育に関する基礎知識と対応できる日本語能力や指導技術を習得する。</p> <p>1. 継承日本語教育を担う指導者に必要とされる日本語能力の習得 2. 継承日本語教育のための専門知識と指導技術の習得 3. 様々な現場体験を通じ、学習者の属性・ニーズに沿った柔軟な指導技術の習得 4. 日本文化への知見と理解を深め、基礎的指導技術を習得 5. 日系人を初めとする外国人の在住状況を理解し、地域における多文化共生への理解を深める</p> <p>1. 講義（継承日本語教育指導者としてのスキルアップ） ・日本語能力試験（JLPT）2級（中級から中上級）レベルの日本語の習得 ・日本語の文法・音声・異文化コミュニケーション等の専門知識の習得 ・4技能別の指導技術の習得 ・教材・資料作成技術の習得 ・継承日本語の歴史や考え方、日本文化の体験学習 2. 見学・実習・演習 ・日本語学校、日本語教室、外国人技能実習受入企業、外国人児童が在籍する小中学校の見学 ・日本の文化施設や永住帰国者支援機関等の視察、地域イベントへの参加 ・日本語教師による学習会・研究会・学会等への参加 ・多文化共生や「やさしい日本語」に関するセミナー・研修会への参加 ・自ら作成した教案・教材による、日本語教室等での個別・クラス指導実習 ・日本語教師を生徒役とした模擬演習</p>	<p>日系子弟を対象に日本語指導を行う新入教師等</p> <p>学歴：不問 経験年数：実務1～2年程度 （日本語能力試験2級以上）や日本語教育に関する専門知識を有する場合、経験年数を緩和する場合あり 年齢：21歳以上 日本語力：日本語能力試験3級以上（初級日本語指導に最低限必要な日本語能力）</p>	<p>さくらネットワーク・システム協同組合</p> <p>HP: http://www.sakuranetwork.com/</p>	<p>奈良岡 茉那 （提案団体担当者） 武澤 恭子 （研修実施機関「一般社団法人ほんごさぼーと北海道」担当者） e-mail: sakura-net@cpost.plala.or.jp takezawa@nihongosupport-hk.or.jp</p>	札幌
66	S06	日系アイデンティティ涵養・日系史教育教材作成演習（その2）	2	下	2021年10月3日	2021年12月13日	<p>日系文化継承教育のための教材制作テーマに関する研修を行うとともに、日本の歴史や文化、社会的背景、現代日本の実情などについて体験を交え深く理解する。また、研修により得られた成果を発表・公表し、当該国の日系文化継承教育のために活用することを目指す。</p> <p>1. 絵画・漫画・動画など、日本（特に金沢を含む北陸地方）だからこそ入手可能な視覚教材資料の探索と収集 2. 教材制作に関わる各種スキルの習得 3. 指導対象となる日系子弟を想定し、学齢児童教育や語学教育現場視察を通じた教育技能のスキルアップ</p> <p>1. 講義：日本文化概論、日本史、日本文化史、日本社会概論、日本伝統芸能概論 2. 実習：日本文化・社会プログラム、日本伝統芸能演習 3. 見学：学校文化施設の訪問、人間社会学位記学校教育実践付属学校、放送大学、石川県をはじめとした北陸各地の文化施設訪問（美術館、博物館等）（必要に応じて）研修員の研修内容に関わる地域への研修旅行 4. 学会・セミナー：必要に応じて 研修員の研修内容に関わるものへの参加を検討 5. 最終発表：研修最終日に実施（閉講式も兼ねる）</p>	<p>具体的な希望教材制作テーマに関するアイデアを応募時点で有すること</p> <p>・担当教官との応募時における事前研究打合せ必須 ・現地日系協会や日本人会組織等が運営する機関において、日系子弟を含む対象者に対する日系文化継承教育またはその教材制作に携わるもの（今後携わる予定があるものも含む） ・所属機関や当該専門分野における中堅の人物であること（公的な第三者又は第三者機関による推薦を得るようすること） ・パソコン（OS不問）及び電子メール送受信、SNS等の基本操作が支障なくできること</p> <p>学歴：不問 経験年数：3年間 年齢：21歳以上 日本語力：JLPTN4以上 英語・多言語：英語CEFR B2以上</p> <p>備考：宿舎はJICA北陸で手配する。 年1コースの受入れを想定しており、5月9日末日予定のコース（その1）に応募者が採用された場合、10月3日末日予定のコース（その2）を下期に募集は行わない予定。</p>	<p>国立大学法人 金沢大学</p> <p>HP: http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/</p>	<p>太田 亨 e-mail: akirao@staff.kanazawa-u.ac.jp</p>	北陸

「2021年度日系社会研修 研修コース一覧」

68	S08	医療（産科婦人科）	1	下	2021年10月3日	2021年11月5日	患者一人一人の全身状態、社会的特性に配慮しながら最適な医療を提供出来るよう、計画・実行するための、知識や経験を身につける。 ①日本の周産期医療の理解 ②日本の周産期医療の技術知見の習得 ③自国で応用可能な技術・手法の確認 ④帰国後の具体的な活動計画の作成 1. 講義：①日本の周産期医療の現状 ②妊婦検診の実際 ③分娩・帝王切開・新生児組成の手法 2. 実習：妊婦検診、分娩助産、手術、他の施設 3. 演習：自国の課題分析、日本の手法の適応の検討。アクションプランに反映させる 4. 学会・セミナー：計画中 発表：内部 アクションプラン発表	・産科婦人科専門医師であること（医師免許ORM取得済である） ・提案書備考欄記載のワクチン接種歴、抗体価の提出、必要時にワクチン接種をおこなうこと 学歴：不問 経験年数：8年間 年齢：40歳まで 日本語力：中級（日常会話レベル） 英語・多言語：研修に耐えうる英語力 備考：研修において臨床実習は行わないものとする。 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎のワクチン接種歴・抗体価を事前に提出し、必要に応じてワクチン接種を行うこと。	金沢大学附属病院 HP: https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/eng/	e-mail: hpsomu@adm.kanazawa-u.ac.jp 藤原 浩	北陸
70	S10	高齢者介護サービスにおける人材育成システム	2	下	2021年12月5日	2022年3月2日	研修員が当該地域で適応可能な、要介護高齢者に対する介護サービスの技術及び知識を習得し、同様の技術、知識を現地に広めることを目的とする。 ① 研修員に、日本の高齢者福祉制度の全体像が理解される ② 研修員に、日本の高齢者介護手法の技術・知識が習得される。 ③ 研修員に、日本における介護の基本的資格である介護職員初任者研修のカリキュラム・技術・知識が習得される。 ④ 研修員が前3項を元に、自国で応用可能な介護技術・介護人材育成のシステムを構築する方法を習得する。 ⑤ 研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。 1 講義（介護職員初任者研修講座を受講） ① 日本の高齢者介護福祉制度の概要 ② 高齢者の日常生活自立の重要性とケアの視点 ③ コミュニケーション技術 ④ 老化・認知症・障害の理解 ⑤ 生活支援技術演習 2 実習・OJT 認知症利用者への接し方 生活支援方法の実習（食事、入浴、排せつ） 3 見学 他団体の施設、活動（公的機関、民間） 4 演習 直面している問題を分析し、日本の手法の適応を検討し、帰国後の活動計画の作成 5 その他 介護職員初任者研修の資格試験実施 6 学会等 介護事業者の団体である茨城県福祉介護事業協同組合の研修会に参加 7 発表 内部及び茨城県福祉介護事業協同組合	実際に家庭及び地域社会で、介護を必要とする高齢者と接した経験 日系社会でこれから高齢者介護に携わろうとする意志があること 本研修を受講するにあたり、実体験と照らし合わせて理解する必要があるため 学歴：不問 経験年数：問わない 年齢：21歳以上 日本語力：N3以上	株式会社つばエデュース HP: http://www.tsukuba-educ.co.jp	e-mail: iioaka1225@gmail.com 飯岡 達郎	横浜
71	S11	日本食の介護食についての知識並びに技能習得	2	下	2021年12月5日	2022年3月2日	研修員が当該地域で適応可能な、日本食に関する知識（下準備、調理方法等）、介護食に関する知識（食材選び、調理方法等）を習得することを目的とする。 ① 研修員に、日本食の知識、味、作り方の基本が習得される ② 研修員に、日本食の介護食の知識、味、作り方が習得される。 ③ 研修員が前2項を元に、自国で応用可能な日本食・日本食の介護食を作る方法を習得する。 ④ 研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。 1 講義（介護職員初任者研修講座テキストを使用し指導する） ① 食事に関連したところからの仕組みと自立に向けた介護 ② 家事援助に関する基礎知識と生活支援 3 見学 日本食・介護職の作り方の実習 4 演習 グループ法人的施設、食事形態 5 その他 帰国後の活動計画の作成 6 学会等 研修員による食事会の実施 7 発表 内部及び茨城県福祉介護事業協同組合	実際に家庭及び地域社会で、介護を必要とする高齢者と接した経験 日系社会でこれから高齢者介護に携わろうとする意志があること 本研修を受講するにあたり、実体験と照らし合わせて理解する必要があるため 学歴：不問 経験年数：問わない 年齢：21歳以上 日本語力：N3以上 備考：宿舎は法人でも案内することが可能である。なお2018年2019年はJICA筑波を宿舎としており、研修期間中の言葉の問題等にも対応している。	株式会社つばエデュース HP: http://www.tsukuba-educ.co.jp	e-mail: iioaka1225@gmail.com 飯岡 達郎	横浜
72	S12	稲作農家を対象とした収穫後処理技術向上研修	1	下	2021年11月7日	2021年12月7日	研修員が、日本における米を中心とした収穫後処理に係る技術や知見を習得する。 1) 研修員が日本における米の収穫後処理に係る技術・知見を習得する。 2) 研修員が日本における大豆・麦の収穫後処理に係る技術・知見を習得する。 3) 研修員がポストハーベスト改善活動計画を作成する。 1) 講義：日本の農業、農協に関する講義、日本の収穫後処理技術に関する講義 2) 実習・OJT：株式会社はせがわ農園にて米の収穫後処理技術を習得 3) 見学：有限会社アールエコキューブ（無農薬米栽培における収穫後処理技術の見学） 4) 発表：研修最終日	米や大豆・麦の生産に従事しており、日本の収穫後処理に係る技術や知見の習得を望む者 学歴：不問 経験年数：10年以下 年齢：21歳以上 日本語力：問わない（ただし、日本語の日常会話が出来程度の日本語能力を有する者が望ましい。） 備考：・宿泊費、研修実施場所の近隣のウィークリーマンションを利用 ・スペイン語の通訳の備上費 ・資材費（作業箱、長ぐつ、安全靴など） ・損害保険料（農業機械等の研修機材）	一般財団法人 アジア農業協同組合振興機関 HP: www.idaca.or.jp	e-mail: oshita-idaca@j.email.ne.jp 大下 栄子	横浜
73	S13	環境教育指導者養成研修	2	下	2021年10月3日	2021年12月3日	研修員が環境教育指導者（インタープリター）として、必要な基礎技術と知識を取得する。 ・環境教育の概要を理解する。 ・インタープリテーション（定義、種類、原則、資質、素材の理解、対象の理解、コミュニケーション、プログラムデザイン等）の基礎知識を理解する。 ・キープ協会の実践を参考に、自国で学校等の現場で環境教育プログラムを行うことができる。 1. 講義・実習： 環境教育概論、インタープリテーション概論、日本の環境教育、八ヶ岳の自然、森林療法プログラム、プログラム実施と相互評価、体験学習法、プログラムデザイン、スライドプログラム、月例観察会等 2. 実習： プログラムの準備・実施・評価（幼児、小学校・中学校・大人一般・シニア・親子） ※実習が研修の8割を占めます。日々の実践を体験しながら、その体験からの気づきから学びを深め理論と実践がつながるようにしていきます。 3. 見学： 環境教育施設（ビジターセンター） 4. 発表： 研修最終日	社会人として一般的な知識を持った心身ともに健康な方 学歴：環境系・教育系いずれかの大学またはそれに準ずる学校の卒業者が望ましい 経験年数：不問 年齢：21歳以上 日本語力：日本語能力試験新基準N3以上 英語・多言語：（研修での）英語対応は不可 備考：・研修実施場所は都市部ではないので、買い物等は最寄のスーパーが車で30分の立地です。 ・宿舎は、キープ協会宿舎または個室寮を利用予定。 一部日程につき、部屋の移動をお願いする場合があります。	公益財団法人 キープ協会 HP: http://www.seisenryo.jp/ http://www.keep.or.jp/ http://www.seisenryo.jp/en/index.html	e-mail: yosuke.sato@keep.or.jp 佐藤陽介	横浜

「2021年度日系社会研修 研修コース一覧」

75	S15	特別支援教育	3	下	下半期のいずれかで相談	12月22日 (約3か月)	<p>研修員が特別支援教育についての知識と実践力を習得し、当該国の教育現場に還元できるよう講義及び実習で研修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の特別支援教育の全般を理解し、自国の勤務先での教育現場で応用できる技術の習得。 日本の特別支援教育の実践現場を体験することにより自国の実践活動での教育手法の習得。 自国での特別支援教育の在り方とを比較検討する技能の習得。 <ol style="list-style-type: none"> 講義：①日本の特別支援教育の概要 ②関連科目 ③特別支援教育の指導法 ④個別の指導計画（Individualized Education Program(IEP)）に関する研修 実習：学校施設での授業見学、実習、現職教員からの実習指導 見学：本法人内の学校施設、関連機関の教育施設も見学 演習：クラス単位での実習と個別指導の実践をする 発表：最終段階では、教育実習同様研究授業を行う 	<p>継承日本語教育実践教師、日系人学校教諭、大学教員・研究員、または、現在、特別支援教育に携わる者</p> <p>学歴：不問 経歴年数：1年以上 年齢：21歳以上 日本語力：N3以上 日本語の講義等を理解できること、日本語で日誌をある程度書けること。</p> <p>備考：①宿舎先は、JICA横浜の宿泊施設または近隣のホテルを利用する。 ②研修効果の持続性を高めるため、帰国研修員への技術フォローアップは本学の通信教育制度を利用して実施する。 ③研修員の資格によって、実習先を中学校にするか高等学校にするか決定する。</p> <p>応募締切は10月末日コースの締切日</p>	<p>学校法人 国際学園 HP: https://www.seisa.a.jp/</p> <p>e-mail: 太田 啓孝 y_ohata@seisa.ac.jp</p>	横浜
76	S16	日系社会の幼児教育	3	下	下半期のいずれかで相談	12月22日 (約3か月)	<p>研修員が、幼児教育の理論、及びものごとを論理的に構築し、実験や観察に基づいて実証していく力を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の幼児教育の基礎理論、教育課程及び指導技術の習得。 教育実習と教職実践演習を通じて幼児教育専門技術の習得。 日本の幼児教育を参考にし、自国での指導に応用可能なアイデア・企画力及び技術の習得。 研修員が帰国後の具体的な活動計画の立案・作成する技術の習得。 <p>講義：幼児教育系科目 2. 実習：音楽実技、体育実技、美術実技、レクリエーション実技等 3. 演習：横浜市青葉区幼稚園（幼保連携型認定こども園）にて教育実習 4. 見学：社会福祉法人「星塚」が運営する保育園見学 5. 学会・セミナー、計画中 6. 発表：学内、研修最終日</p>	<p>継承日本語教育実践教師または現在、幼児教育に携わる者</p> <p>学歴：不問 経歴年数：2年以上 年齢：21歳以上 日本語力：N3以上 日本語の講義等を受講すること、日本語で日誌をある程度書けること。</p> <p>備考：①宿舎先はJICA横浜の宿泊施設、または、近隣のホテルを利用 ②研修効果の持続性を高めるため、帰国研修員への技術フォローアップは本学の通信教育制度を利用して実施する。 ③研修員の資格によって、研修内容・実習先の変更もあり得る。</p> <p>応募締切は10月末日コースの締切日</p>	<p>学校法人 国際学園 HP: https://www.seisa.a.jp/</p> <p>e-mail: 太田 啓孝 y_ohata@seisa.ac.jp</p>	横浜
82	S22	日系歯学Ⅱ	2	下	下半期のいずれかで相談	3か月以内	<p>研修員が、歯学における各専門分野の最先端技術に関する知識及び技術を習得する。</p> <p>研修員に、各専門分野における最先端医療の知識が向上される。 2. 研修員に、各種医療機器の操作技術が習得される。 3. 研修員に、各専門分野における診断技術が習得される。 4. 研修員に、各専門分野における手術技法が習得される。 5. 研修員に、各専門分野における術後ケアに関する知識及び技術が習得される。 6. 研修員が、研究ネットワークを構築する。</p> <p>各専門分野における最先端医療の知識向上 2. 各種医療器具の操作技術 3. 診断技術 4. 手術技法 5. 術後ケア 6. 研究ネットワーク構築</p>	<p>大学等研修受入機関の内諾を得ていること</p> <p>学歴：大学歯学部卒業 経歴年数：実務経験1年以上 年齢：21歳以上 日本語力：原則、日本語で実施 英語・多言語：研修実施場所において英語での研修が可能であり、かつ英語での研修の実施を希望する場合は応相談</p> <p>備考：応募締切は10月末日コースの締切日</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会 HP: http://www.jadesas.or.jp/</p> <p>e-mail: 水上 貴雄 kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
83	S23	日系保健福祉Ⅱ	2	下	下半期のいずれかで相談	3か月以内	<p>研修員が、保健福祉における各専門分野の最先端技術に関する知識及び技術を習得する。</p> <p>研修員に、各専門分野における最先端医療福祉の知識が向上される。 2. 研修員に、各種医療器具等の操作技術が習得される。 3. 研修員に、各専門分野における診断技術が習得される。 4. 研修員に、各専門分野における指導技術が習得される。 5. 研修員が、研究ネットワークを構築する。</p> <p>各専門分野における最先端医療福祉の知識向上 2. 各種医療器具等の操作技術 3. 診断技術 4. 指導技術 5. マネジメント 6. 研究ネットワーク構築</p>	<p>大学等研修受入機関の内諾を得ていること</p> <p>学歴：医療福祉分野の専門教育を受けている者またはそれに準ずる能力を有する者 経歴年数：実務経験1年以上 年齢：21歳以上 日本語力：原則、日本語で実施 英語・多言語：研修実施場所において英語での研修が可能であり、かつ英語での研修の実施を希望する場合は応相談</p> <p>備考：応募締切は10月末日コースの締切日</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会 HP: http://www.jadesas.or.jp/</p> <p>e-mail: 水上 貴雄 kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
85	S25	博物館における資料と展示技術の有効活用およびネットワーク強化	2	下	2021年12月5日	2021年12月23日	<p>研修員に、資料館、博物館運営のための知識及び資料の収集・保存、展示技術などが習得され、海外移住資料館デジタルコンテンツの活用が促進される。</p> <p>(1) 研修員に、講義や視察をとおして、資料館・博物館運営に関する知識が習得される。 (2) 研修員に、海外移住資料館や他館での実習をとおして、資料の収集・保存、展示技術に関する知識及び技術が習得される。 (3) 研修員に、海外移住資料館を通じた各国移住資料所蔵施設等とのネットワークが構築される。</p> <p>1. 講義 海外移住資料館概要／日系団体に関する講義／IT技術ほか展示技術を用いた資料管理と展示方法／民族資料の収集と保存／在日日系アイデンティティなど 2. 演習 企画展示の構想からオープンまで／美術品取扱梱包研修／美術品展示研修 3. 見学 国立歴史民俗博物館／海外移住と文化の交流センター／大泉移民ミュージアム／外交史料館／その他海外移住関連施設</p>	<p>各国における日系博物館、日系団体等での勤務者・関係者</p> <p>学歴：不問 経歴年数：3年以上 年齢：21歳以上 日本語力：原則、日本語で実施</p> <p>備考：参加者の日本語能力に応じて通訳を配置する予定。</p>	<p>公益財団法人 海外日系人協会 HP: http://www.jadesas.or.jp/</p> <p>e-mail: 水上 貴雄 kenshu@jadesas.or.jp</p>	横浜
86	S26	内視鏡を用いた日本式早期がん検診と治療	3	下	10/3または 下半期いずれかで相談可	約3週間	<p>研修員が日本式の早期がん検診について十分に理解し、経内視鏡の診断・治療技術を向上させること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本における内視鏡を用いた早期がん発見、診断および治療にかかる制度の概要を理解する。 研修実施機関および副研修実施機関での症例見学、模擬実技研修を通じ、日本の最先端の内視鏡症例環境を学ぶとともに、経内視鏡の診断・治療技術を向上する。 研修実施機関の関係者との人脈形成を通じ、研修後の継続的な情報交換が期待される。 研修員が、各国における日本式早期がん検診の啓蒙活動計画を作成する。 <p>1. 講義：日本における内視鏡を用いた早期がん発見、診断および治療にかかる制度概要 等 2. 見学：病院（日本式早期がん検診制度の紹介と症例立会い、内視鏡診断・治療技術の教育） 3. ディスカッション：研修最終日前日（テーマ：各国の日本式早期がん検診の啓蒙活動計画） 4. 発表：研修最終日（テーマ：今回の学びならびに上記啓蒙活動計画の発表）</p>	<p>軟性内視鏡を使った医療行為に従事している医師</p> <p>学歴：不問 経歴年数：軟性内視鏡を使った医療行為経験最低5年以上（基礎知識、知見が必要なため） 年齢：21歳以上 日本語力：不問 英語・多言語：専門領域に関する会話が英語で問題なく行える</p> <p>備考：・研修期間中は、より効率的な研修をサポートすべく、研修委託先から最低1名付き添うことが可能。 ・研修員応募の際には、選考時必要書類として認定証またはCURRICULUM VITAEを応募者に提出いただく。 ・宿舎は受け入れ先付近ならびに都内ホテルを予定。</p> <p>応募締切は10月末日コースの締切日</p>	<p>富士フィルム株式会社 HP: https://www.jichi.ac.jp/english/about/hospital.html</p> <p>e-mail: 岡田朝助 tomosuke.okada@fujifilm.com</p>	横浜

「2021年度日系社会研修 研修コース一覧」

87	S27	環境教育リーダー養成研修（都市型環境教育）	3	下	2022年1月10日	2022年2月16日	<p>研修員が、現地日系社会に活用可能な、一般市民を中心とした社会の環境意識を高めることを目指した環境教育を実践するための知識及び技術を習得すること。また、現地日系社会の様々な人的・社会的資源を活用しながら、市民や他の組織・団体と協働で行う環境教育推進の視点を獲得すること。</p> <p>①環境教育実践の基本的な知識（歴史や手法、考え方等）が理解される。 ②環境教育実践のための知識と技術が習得される。 ③多様な人的・社会的資源を活かし、市民社会における環境教育を推進する視点を獲得する。 ④上記3項を基に、研修員が自国で応用・活用できる知識と技術が整理される。</p> <p>1. 講義 環境教育の歴史・考え方、体験学習法、環境教育における市民参画、ワークショップの理論と技法、プログラムデザイン/企画/評価 2. 実習 OJT 京エコロジーセンターの来館者への環境教育プログラムの実施や展示解説（インタープリテーション）の実施（来館者対応あり） 子どもから大人を対象とした環境教育プログラムの企画・実施・評価 地域コミュニティ等での市民参画による環境保全活動・環境教育コーディネート 3. 見学 他の環境教育施設または環境NGO等の環境教育の取り組み、市民参画で環境教育を推進している取り組みや仕組みについて視察する 4. 演習 当該地域の抱える環境問題及び環境教育の課題を分析した上で、様々なリソース（人的資源、社会的資源）を巻き込み環境教育を推進していくためのアクションプラン作成する 5. 発表 「4. 演習」で作成したアクションプランについて発表をする。それに対し関係者・学識者よりフィードバックを行い、より実現可能なものに高める。</p>	<p>必要資格：環境教育に携わっている、または携わる意思があること。 経験年数：特に定めない（教育分野に携わった経験があることが望ましい）</p> <p>日本語能力：日本語能力試験N3程度（同等レベル、会話力を重視する） *本研修は、実習・OJTが中心となり、子どもをはじめとした来館者等とのコミュニケーションが必要なため、相応のコミュニケーション力が必要になる。</p> <p>学歴：大卒（相当） 経験年数：特に定めない 年齢：21歳以上 日本語力：日本語能力試験N3程度 英語・多言語：通訳配置可能性無 教材：日本語or英語</p>	<p>公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 HP: http://www.miyako-eco.jp</p>	<p>中込 佑奈 e-mail: nakagomi@miyako-eco.jp</p>	関西
88	S28	日系アイデンティティの涵養を通じた日系団体の活性化	3	下	2022年1月10日	2022年1月26日	<p>自身のルーツとなる日系アイデンティティが強化され、自国の日系団体の中核的存在として同団体の活動を活性化させるための企画・実践力を身につける。</p> <p>1. 自身のルーツとなる土地への理解を深め、日系アイデンティティが強化される。2. 日系団体等の活性化のための活動に関する企画力・実践力が強化される。3. 研修を通して交流を深めた日本人との新たな日系ネットワークを構築する。</p> <p>1. 講義、実習（伝統芸能・文化の視察等、地域・団体の活性化等に関する講義、地元青年等との意見交換・交流等） 2. 所属する日系団体の活性化のための活動計画の作成、3. 関係者への研修結果の報告。</p>	<p>資格：日系団体の青年部等に所属している者、または今後所属する意思があるもので、当該団体からの推薦を得られること（研修効果に鑑み、島根県人会等、島根県にルーツを有する者が望ましい） 実務経験：不問 日本語：日本語能力試験N4程度以上が望ましい</p> <p>学歴：大卒（相当） 経験年数：特に定めない 年齢：21-39 日本語力：日本語での研修が受講可能な方（N4程度以上）</p>	<p>島根県 HP: http://www.pref.shimane.lg.jp/</p>	<p>美藤 圭介 e-mail: bito-keisuke@pref.shimane.lg.jp</p>	中国
89	S29	理学療法による機能回復訓練	1	下	2021年10月3日	2021年11月20日	<p>障害者などに対して、身体機能の改善や日常生活活動能力の向上などを目的としたリハビリ訓練の手法を習得する。</p> <p>理学療法の様々なアプローチからのリハビリ訓練に関する手法。</p> <p>障害者（主に成人）を対象とした理学療法による機能回復訓練の現場での実習を通じて、訓練の流れやシステム、疾患別アプローチについて学ぶ。</p>	<p>理学療法士の資格・経験のある者（自国での資格で可）。 学歴：大卒（相当） 経験年数：不問 年齢：21-50 日本語力：N2以上</p>	<p>（公財）ひろしま国際センター HP: http://hiroshima-ic.or.jp/</p>	<p>永島 実緒子 e-mail: hicc12@hiroshima-ic.or.jp</p>	中国
93	S33	早期胃癌の内視鏡診断と治療	3	下	10月3日または11月7日	11月6日または12月11日（選択可）	<p>世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ</p> <p>1. 日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習熟できる 2. プタ研修を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術とコツを学ぶ 3. 帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する 4. インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する</p> <p>1. 講義：最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2. 見学：九州大病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3. 実習：プタから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4. 学会参加：日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5. 発表：医学部内で研修内容を発表</p>	<p>医師、臨床経験5年以上、内視鏡経験3年以上</p> <p>学歴：医学部 経験年数：医学部卒業5年以上 年齢：21-55 日本語力：不問（推奨：日常会話） 英語・多言語：技術研修は英語で実施。</p> <p>備考：宿舎は外国人研究員等宿泊施設（馬出）を予定。立地・設備等についてはホームページ（http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/supportcenter/housing-2）参照のこと ・応募締切は10月末日の締切</p>	<p>国立大学法人九州大学 HP: http://www.imed.med.kyushu-u.ac.jp/en/index.html</p>	<p>森山 智彦 e-mail: morimori@intmed2.med.kyushu-u.ac.jp</p>	九州
94	S34	グリーンツーリズム	3	下	2021年10月3日	2021年11月2日	<p>研修員がグリーンツーリズムについての知見を習得する</p> <p>1. グリーンツーリズムの意義について理解する 2. グリーンツーリズムの具体的な事例、経営ノウハウについての知見を得る 3. 日本におけるグリーンツーリズムの事例を参考にして研修員が自国で実施可能なアイデアを得る 4. 研修員が帰国後の具体的な実践計画を作成する</p> <p>1. 講義：グリーンツーリズムの意義、日本（鹿児島）におけるグリーンツーリズムの現状と課題、農村女性の活用、グリーンツーリズム経営とリスクマネジメント、環境保全 2. 実習：グリーンツーリズムの事例（農業体験、農産物加工体験、自然体験、農家民泊） 3. 視察：グリーンツーリズム関連施設、観光施設 4. 意見交換：グリーンツーリズム実践者、関係者との意見交換 5. 発表：研修成果発表</p>	<p>グリーンツーリズム実践を目指して、且つ、①農・林・漁業関連、旅行業、または②日系社会で婦人会などの地域活動をしている</p> <p>学歴：特に指定なし 経験年数：3年以上 年齢：21-50 日本語力：N3以上 英語・多言語：英語の場合、TOEIC 500点以上</p> <p>備考：宿泊は鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター（KAPICセンター）の予定。立地や施設についてはHP参照 http://kpic.jp/en/</p>	<p>共同事業体 鹿児島国際交流協力センター HP: http://kpic.jp http://kpic.jp/en/index</p>	<p>渡邊 洋子 e-mail: kapic114@p03.synapse.ne.jp</p>	九州
95	S35	農産物加工とマーケティング	3	下	2021年11月7日	2021年12月6日	<p>研修員が農林水産物の加工、高付加価値化、6次産業化についての知見を習得する</p> <p>1. 農産物の加工、高付加価値化、マーケティングについての基礎的な知識を得る。 2. 農産物の加工、高付加価値化、マーケティングに関する具体的な事例について理解する。 3. 日本における農産物の加工、6次産業化の事例を参考にして研修員が自国で実施可能なアイデアを得る 4. 研修員が帰国後の具体的な実践計画を作成する</p> <p>1. 講義：農産物の加工と6次産業化、高付加価値化、マーケティング戦略、ブランド化、パッケージとデザイン 2. 実習：農産物加工 3. 視察：大隅農産物加工研究センター、民間企業（農産物加工、畜産加工、水産加工） 4. 意見交換：関係者との意見交換 5. 発表：研修成果発表</p>	<p>農業関連（生産、加工、流通など）の仕事に従事している者</p> <p>学歴：特に指定なし 経験年数：3年以上 年齢：21-50 日本語力：N3以上 英語・多言語：英語の場合、TOEIC 500点以上</p> <p>備考：宿泊は鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター（KAPICセンター）の予定。立地や施設についてはHP参照 http://kpic.jp/en/</p>	<p>共同事業体 鹿児島国際交流協力センター HP: http://kpic.jp http://kpic.jp/en/index</p>	<p>渡邊 洋子 e-mail: kapic114@p03.synapse.ne.jp</p>	九州

「2021年度日系社会研修 研修コース一覧」

97	S37	花弁園芸の栽培技術及びフラワーアレンジメント技術研修	3	下	2021年10月3日	2021年12月25日	<p>研修員が自国での花弁園芸の発展に貢献できる人材となるよう花弁園芸に関する基礎的な技術を習得し、農業経営の発展に寄与する事を習得する。ピカクンダ等胞子植物の栽培方法を習得する。フラワーアレンジや花束等技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 植物の育種方法を習得する。 さし木、取り木、株分け、胞子栽培等の技術力を向上する 2. 経営管理能力を習得する。 販売方法を考察する。フラワーアレンジ、生け花等を体験。 3. 農業全般を体験し、帰国後、実践的な事業計画を作成する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義・実習・視察 <ul style="list-style-type: none"> ・ (講義) 植物による育苗・育種の違い ・ (実習) 栽培管理の技術の習得 ・ (実習) 栽培管理の技術の習得 ・ (実習) 胞子栽培の技術の習得 ・ (実習) フラワーアレンジメント、生け花の技術習得 ・ (視察) 農産物の加工施設等の視察 ・ (視察) 植物園、観光農園等の視察 ・ (視察) 直売所、道の駅等の視察 ・ (その他) 農業大専校、先進農家等の情報交換 	<p>農業に関心がある者</p> <p>学歴：不問 経験年数：特になし 年齢：21-50 日本語力：日常会話で可能な程度</p> <p>備考：研修先はセンターから離れているため、研修先周辺で滞在予定。</p>	農業生産法人 ANDES farm 合同会社	伊藤 裕美子 e-mail: andesnouen@gmail.com	沖縄
100	S40	よさこい踊り子チームのマネジメントを通じた日系社会の活性化	1	下	2022年1月10日	2022年2月6日	<p>①現在所属するよさこい踊り子チームの総合的なマネジメント力のレベルアップを図る ②研修成果物であるよさこい踊り子の衣装、音楽、鳴子、振付を活用したアクションプランを創造する ③日本のよさこい祭り関係者との連携を通じて、現地チームの持続可能な運営サポート体制を構築する</p> <p>④持続可能なよさこい踊り子チーム運営に必要な総合マネジメント力が向上する ⑤海外のよさこい踊り子チームの持続的な発展に不可欠な本場のよさこいアイテム (衣装、音楽、鳴子、振付) の継続的な取得方法を ⑥よさこい踊り子のステイクホルダーとの交流を通じて、新たなよさこいネットワークが構築される ⑦日本のよさこい祭り関係者との連携を通じて、現地チームの持続可能な運営サポート体制が構築される</p> <p>講義：「ボランティアグループのマネジメント」、「高知県の海外よさこいチームへの支援政策」、「よさこい踊り子チームの衣装・音楽・振付マネジメント」 視察：鳴子制作現場、よさこい衣装制作現場、よさこい音楽セレクト現場、よさこい振付セレクト現場 高知よさこい情報交流館、高知城、高知城歴史博物館、龍馬の生まれた町記念館 発表：日系社会の現状 (カントリーレポート)、アクションプラン (研修成果報告) その他：高知県表敬、高知県議会表敬、ホームビジット</p>	<p>日系社会でのよさこい踊り子チームマネジメントを期待できる人材</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：21歳以上 日本語力：研修可能な日本語力を有する者</p> <p>備考：高知県での研修の背景と特徴 1. 本研修事業は、「よさこい祭り」を世界に発信するという高知県のネットワーク国際化政策に合致する。 2. 高知県は日本の中でも中南米への移住者が多く、歴史的にも日系社会でのリーダーを輩出してきている。 3. 近年、「よさこい踊り子の指導と普及を目的にパ'ラ'アに派遣されていたJICA日系社会短期ボランティアから「よさこい踊り子チームの衣装・音楽・振付を総合的にマネジメントする人材育成研修」の要望が上がっている。 4. 日系社会の活性化組織としての「新たなよさこい踊り子チームの創設につながる研修スキーム」のニーズが南米諸国にあり、継続的な本研修プログラムの先に、高知県を南米日系社会の悲願である「南米よさこい祭り国際大会開催」のビジョンが描ける</p>	高知希望工程基金会	山中 茂 e-mail: chinatu6732@ybb.ne.jp	四国
101	S41	自然環境保全を目指したバイオ複合材料の調査研究	2	下	下半期のいずれかで相談	2022年3月9日	<p>全世界で自然環境保全を目指したバイオ複合材料が必要とされていることを理解し、調査研究を通じて、専門知識を得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 石油由来のプラスチックごみの環境に及ぼす影響について理解すること 2. 石油由来のプラスチックに代わるバイオ材料についての知識を得ること 3. 最新のバイオ材料の研究動向を知ること 4. 自然環境保全を目指したバイオ複合材料の試作研究を行い、専門知識を得ること <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査：教員から個別のレクチャー、研究室の日本人学生との学術論文読解、最新の研究動向を文献ベースで調査し、問題点の抽出ならび解決策の一つであるバイオ材料の現状分析調査を行う。バイオ複合材が研究の一分野であるエコマテリアル国際会議 (ICEM15) に参加し、最新の研究動向を情報収集し、大学院進学が可能となるように研究指導を行う。 2. 試験計画策定：問題点を解決するためのバイオ複合材料の試作について、試作方法、分析方法、評価法について、試験計画を策定する 3. 試作試験：バイオ複合材料の試作を行う。 4. 分析：適切な分析評価方法を調査し、分析を行う。 5. 解析・まとめ：分析結果から目的としたバイオ複合材料の試作の可否ならびにさらに性能向上に向けた問題点をまとめる。 	<p>理系大学在学中または卒業</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：21歳以上 日本語力：ポルトガル語で会話できる教員が在籍しているため、ポルトガル語を話せる場合は日本語能力不問 (ただし、研修期間中の徳島大学が開講する日本語教室を必ず受講すること)。スペイン語を話せる場合は、日本語能力試験N3以上 (ただし、研修期間中の徳島大学が開講する日本語教室を必ず受講すること)。 英語・多言語：国際的なレベルの研究を行うため、理系の英語論文読解および執筆能力、研究者とのコミュニケーション英語会話能力は必須。(理系大学卒業であれば、英語能力は有していると想定)</p> <p>備考：1. 研修内容についての詳細な質問は、日本語の場合は長谷崎 (hasezaki@tokushima-u.ac.jp) ポルトガル語の場合はナカガイト (nakagaito@tokushima-u.ac.jp) にお問い合わせください。 2. 別の要件で研修期間前に訪日の機会があり、徳島大学社会産業理工学研究部の研究・教育設備等の見学を希望される方は、積極的に受け入れます。 3. 徳島では、8月のお盆期間中、約400年の歴史を持つ日本の伝統芸能のひとつである「阿波踊り」が開催されます。「阿波踊り」では一つの踊りグループのことを「連 (れん)」といいます。研修期間が阿波踊り開催時期と重なるようであれば、日本文化を知り、徳島市民とも交流を深めるためにも、「連」に加入し、阿波踊りを習得していただくことを希望します。</p> <p>応募締切は10月末日コースの締切日</p>	徳島大学 HP: http://www.tokushima-u.ac.jp/	長谷崎 和洋 e-mail: hasezaki@tokushima-u.ac.jp	四国
102	S42	地域包括ケアシステムと在宅医療	2	下	2021年11月7日	2021年12月4日	<p>患者中心の視点で「生活の中の医療」「病気ではなく人を診る」を心がけ、患者のニーズに応じた医療システム、在宅患者やご家族がご自宅で過ごすために必要な知識、技術、支援方法を習得する。加えて、地域で最期まで暮らし続けることを支える様々な仕組みやシステムについても施設やサービスの見学あるいは実体験を通して学ぶ。併せて在宅医療を通して、最期まで安心して暮らし続けることの出来る地域創生法を実例から理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の高齢者福祉制度の全体像が理解される。 2. 日本の在宅医療の技術・知識が習得される。 3. 前2項を元に、自国で応用可能な介護技術・知識を整理する。 4. 高齢者施設の運営、管理について理解する。 5. 高齢者用住宅の利便性について理解する。 6. 高齢者に残されている力を使うケアについて理解し、応用できることを計画する。 7. 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるための包括的地域医療 (訪問医療・看護・リハビリ・介護等の包括的な展開) を理解する。 8. へき地の診療所の取組みや地域との関わり方を理解する。 9. 帰国後の具体的な活動計画を作成する。 <p>【内容】 1. 講義 1) 高齢社会を支える在宅医療、2) 高齢者ケア、3) 在宅緩和ケア、4) 地域包括ケアシステム、 2. 実習 訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、鍼灸マッサージ、訪問介護などへの同行 3. 見学 1) 在宅療養支援病床&ホスピス・緩和ケア病床、2) 高齢者施設、高齢者賃貸住宅、3) 訪問看護・介護ステーション、 4) へき地の診療所の取組みと地域医療 (徳津診療所) 4. 演習 直面している問題を分析、日本の手法の適応を検討、帰国後の活動計画の作成 5. 発表 成果報告会</p> <p>【カリキュラム】 以下のカリキュラムにおいて、研修内容の十分な理解と習得が行われることを目指します。 1. 在宅医療全般についての講義と在宅での臨床研修、2. 在宅ターミナルケアについての講義と当該患者様宅での臨床研修、3. 在宅での看護、リハビリ、介護、鍼灸マッサージ等の臨床研修、4. 地域医療とフィールドワーク (徳津診療所)、5. 医療連携、介護連携による地域包括ケアの講義と見学研修、6. 高齢者施設の見学研修</p>	<p>日系社会で医療・保健・福祉分野に従事する者</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：21歳以上 日本語力：日常会話以上が望ましい 備考：当院病床の食事 (朝食) も可能。 日本文化体験：松山市内の文化施設訪問。徳津での地域振興産業の見学と体験を予定。</p>	医療法人ゆうの森 HP: http://www.tampo-clinic.com/	木原 信吾 e-mail: kihara@tampo-clinic.com	四国

※ コロナウイルスの影響により研修中止となった2020年度仮合格は2021年度と同コースに振り替えるため、これにより既に定員を満たしている2021年度研修コースは、今回募集していません。